

洪水・土砂災害ハザードマップ説明会 質疑応答一覧表

No.	地区	会場	開催日	出席者	質問	回答	説明者	参加職員
1	伊久美	伊久美地区環境改善センター 多目的室	5月9日	2	洪水時に垂直避難ができない家や地域においては、付近に民間事業者の高い建物があれば、そこに避難できるよう、市でも働きかけてほしい。	地域の状況に応じて地区と事業者と協議していきたい。被害状況によって、学校などの避難所では校舎の2階以上に避難するなど、命を守ることを最優先してほしい。	進士係長	危機管理部長 危機管理課長 管理担当2人 対策担当4人
					浸水想定区域図が未作成の河川でも、これまで被害が発生していると思うが、その周知はどのように考えるか？	地域で作成している「防災マップ」などに危険箇所として表示する方法もひとつである。市としても、県で浸水想定区域図が公表され次第ハザードマップに反映していく。		
					長島地区で発生している農地のクラックについては、市は把握しているか？	市では、危機管理部や都市基盤部において現状の確認はしており、県道沿いであることから土木事務所も状況は把握している。今後、県において調査等を行っていくと思うが、地域でも大雨時には、降雨量に注目し土砂災害の発生などに注意してほしい。		
2	川根	川根文化センターチャリム21 視聴覚室	5月16日	25	抜里の避難所である「ぬくり交流センター」は、「最大想定規模」と「計画規模」の両方で「適さない」と表示されているが、市はなぜそのような危険な場所を指定避難所としているのか？	指定避難所は、水害時や土砂災害時だけでなく、地震発生時などにも避難所としても開設する。洪水や土砂災害時に、避難所として「適さない」となっている場所は、浸水が3m以上又は土砂災害特別警戒区域内にあるため、市は災害状況に応じて避難所として使用可否を判断して開設することになる。また、避難所に避難することだけが避難ではないため、自宅が安全な場合は留まること、安全な付近の親戚や知り合いの家に避難するなど、ハザードマップを確認しながら、状況に応じた避難をしてほしい。	進士係長	危機管理部長 危機管理課長 管理担当1人 対策担当2人
					昨年の台風15号の際、川根地区では避難所は開設されていなかったが、川根支所で避難者の受入れを行っていた。そういった情報は、避難所の開設情報は市からどのように発信されるのか？	避難所の開設が必要と判断した場合は、開設する場所や時間を同報無線やメール、LINEなどを情報発信ツールを活用して、該当地域の市民に周知する。昨年の台風15号においては、夜間に大雨となり、避難所への避難時にリスクが高かったことから、避難情報の発令や避難所開設は行っていない。また、川根支所は災害対応のため職員が常駐しており、地域住民が避難されてきたことから受入れを行った経緯がある。		
					昨年以降、川根地区の土砂崩れが発生した箇所の状況が進んでいると思われるが対策はどうなっているか？ (家山清水沢の土砂崩れ)	県で現地調査を行っており、今後、土砂の流出を軽減する「堰堤」を整備していくと聞いている。		
					ハザードマップに表示されている土砂災害警戒区域内のみ被害が発生する可能性があると思えばよいのか？	ハザードマップに掲載されている被害想定は、一定の降雨があった場合の被害想定であるため、それ以上の降雨となった場合は、被害区域が大きくなる可能性はある。マップに示している土砂災害警戒区域等は、人が生活している区域であるため指定しているが、それ以外の場所でも、土砂災害は発生する可能性は十分にある。降雨量が多い時は、山間部や道路沿いでの土砂災害にも注意が必要である。		

3	金谷	生きがいセンター夢づくり会館 学習の部屋	5月23日	34	<p>市が避難情報で「避難指示」を発令した場合は、「危険な場所から全員避難」と表記されているが、どういった避難をすればよいのか？</p>	<p>避難情報が発令された地区内の住んでいる場所や建物の状況などによって、避難の対応は異なる。土砂崩れや浸水などの危険性が高い場所に住んでいる方は、避難所など安全なところに避難する必要があるが、自宅が安全である場合は避難所に避難する必要はなく、万が一の場合には、垂直避難など「身の安全を守る行動」を取ってほしい。</p>	進士係長	危機管理部長 危機管理課長 管理担当2人 対策担当2人
					<p>4年前の台風の接近時に、夢づくり会館ではなく五和会館が避難所として開設がされたが、この地域における避難所は五和会館となっているのか？ 風水害時の避難所は、平屋の建物ではなく浸水被害を考慮した垂直避難が可能な施設としてほしい。</p>	<p>4年前の避難所開設時に、五和会館を避難所とした理由はわからないが、金谷の島地区の一次指定避難所は「夢づくり会館」としている。降雨の状況によって、五和会館を開設したと思われるが、浸水など被害の恐れがある場合は、身の安全を守ることを最優先するため夢づくり会館の2階に避難するよう市も指示する。 避難所に避難することが安全と認識されている方もいるが、自宅が安全であれば自宅に留まることや、高い場所に避難するなど、緊急時は「身の安全を確保する」ことを最優先してほしい。</p>		

4	島田	プラザおおりの 大会議室	5月24日	31	<p>横井地内の大井川緑地が「広域避難地」として掲載されているが水害時の避難場所としては適さないのではないか？</p>	<p>マップに示している避難所や避難地は、風水害時だけでなく、地震や大規模火災などの災害時にも使用するため掲載している。水害時の避難場所として適さないため、高い場所など安全なところに避難してほしい。 横井地区で例えるとJR島田などが考えられる。 市も早い段階で防災情報を発信するが、想定外なことも考慮して自らの判断で行動することも重要である。</p>	櫻庭書記	危機管理部長 危機管理課長 管理担当2人 対策担当3人
					<p>「想定最大規模」と「計画規模」の違いを教えてください。</p>	<p>想定最大規模は1000年に1度の確立で降る雨により堤防が破堤した場合の浸水想定区域を示している。 計画規模は、河川の整備断面にもよるが30年から100年の確立で降る降雨により堤防が破堤した場合の浸水想定区域を示している。大井川は100年、大代川は30年、東光寺谷川や大津谷川などは50年に1度の降雨による河川整備となっている。</p>		
					<p>ハザードマップを作成したことや活用などを、自治会や町内会に周知しているのか？</p>	<p>「広報しまだ4月号」で、説明会開催の記事を掲載していたが、周知方法としては不足していたため、今回の自主防災会長・委員長会議において再度、周知させていただいた。要請があれば、町内会や団体単位での説明会を実施する。</p>		
					<p>防災情報の取得方法は、スマホや携帯を持っていれば自動的に入手することができるのか？</p>	<p>市からの防災情報を取得するには、メールやLINEの登録をしないと届かない。緊急地震速報やエリアメールなど、携帯のキャリアに直接、発信される情報もある。</p>		
					<p>休日や夜間時の、市への問合せはどこにすればよいのか？</p>	<p>休日や夜間の問合せ先は、島田市の代表番号（37-5111）で宿直につながる。</p>		
					<p>ハザードマップの説明を聞いて、市内の浸水被害や土砂災害の発生を想定した市民の対応や取り組みが必要なことは理解した。 市の防災に対する取り組みは、普段どのようなことを行っているのか？（民間事業者との連携や施設整備など）</p>	<p>ソフト事業としては、今回のような説明会の開催や町内会や学校などへの「防災出前講座」の実施、地域防災リーダー養成講座の開催など、市民の防災意識向上を図る啓発事業の実施している。 災害時における資機材や物資、施設の優先提供など、民間事業者との協定も締結している。 ハード事業としては、河川や水路等の改修はもちろん、河川を管理する国や県、関係団体と連携した「流域治水」という考えで様々な取り組みを行っている。 大雨時などには、休日、夜間に限らず市職員が、水防対応に努めている。</p>		
					<p>防災情報の入手方法は、ハザードマップに掲載されており、市としても登録者を増やしていくのであれば、このような説明会に来られた市民で未登録の方には、その場で登録や設定をしてもらえば登録者の増加につながると思う。</p>	<p>提案のとおり、本日の説明会終了後から、登録希望者への対応に取り組んでいく。</p>		
<p>全国的に地震の発生が増えているが、このハザードマップには、東南海地震などの情報も含まれているのか？</p>	<p>洪水・土砂災害ハザードマップのため、地震の情報は掲載されていない。平成26年に静岡県が公表した大規模地震による「第4次地震被害想定」から地震での被害想定は確認できる。</p>							

					<p>浸水想定区域はどのように設定しているのか？</p> <p>浸水想定区域の設定は、河川の堤防を複数箇所、任意で破堤させた場合の氾濫シミュレーションを行い、全ての浸水想定区域図を重ね、各浸水区域の最も深い浸水深を示している。</p>		
					<p>島田市内が浸水した場合、どのくらいの時間が経過したら水は引くのか？</p> <p>島田市は地形上、扇状地の付け根にあり全体的に傾斜していることから、街中が浸水した場合、窪地を除き、大半の地域では約6時間で排水され、12時間後には、ほぼ排水が完了する想定となっている。</p>		
5	初倉	初倉地域総合センター くらら	5月31日	46	<p>月坂団地は土砂災害警戒区域に入っているが、このハザードマップに記されている浸水想定は、土砂が河川に流れ込み、塞いだ場合も考慮されているか？</p> <p>土砂が流入して河川を塞いだ場合の浸水は想定されていない。対象となる河川が、降雨による増水で洪水となった場合の浸水想定区域を示している。</p>	櫻庭書記	危機管理部長 危機管理課長 管理担当1人 対策担当3人
				<p>大井川の中で氾濫しやすい場所はどこか？</p> <p>ハザードマップで、氾濫しやすい場所を示すことはできないが、実際の大井川の流れをみると、川の流れが曲がった先の低水護岸に被害が多いことが確認できる。市水防計画書には「重要水防箇所」として、危険が予想される箇所を示している。また、牛尾山も掘削され、流れが変化したことから、氾濫しやすい箇所の変化も想定される。</p>			
				<p>市内の水位計や監視カメラの情報はどこで確認ができるのか？</p> <p>ハザードマップに水位計や監視カメラの凡例があるため、確認したい河川に水位計などが設置されている場合は、「川の防災情報」「川の水位情報」のサイトから確認ができる。</p>			
				<p>避難する際、湯日川の洪水氾濫が心配である。吉田町の千草橋に水位計は設置されているが、同じ河川でも複数、水位計やカメラの設置はできないのか？</p> <p>湯日川は県管理河川のため、水位計や監視カメラの整備は、原則、管理者である県が設置を行う。地域から設置要望があったことは市からも県に伝えておく。</p>			
				<p>大雨が降った際、農地から出た糞が水路に詰まり困る。市から農地管理者に対策を講じるよう要請することはできないか？</p> <p>農地管理者に市が要請することは難しい。市関係部署には、本件を報告しておく。</p>			
				<p>浸水深の数値は何の高さを基準に出しているのか？</p> <p>ハザードマップの浸水想定は25メートル四方で区切り、氾濫した水の浸水深から地盤の高さを引いた数値をもとに色分けを行っている。また、地盤の高さは25メートル四方内の平均値を用いている。</p>			
				<p>ハザードマップの浸水想定区域の色分けの仕方は、県内外、他市町と同様か？</p> <p>浸水想定区域の高さは全国共通としているが、浸水深は、見やすいように深さごとに島田市独自の配色で表記している。</p>			
				<p>P3の対象とする河川の想定雨量は、時間当たりどの程度雨が降るのかを記載したものだと思うが、1時間から2日間と時間に大きな差があるため比較が難しい。時間を統一することは可能か？</p> <p>県の公表データに基づき、対象河川の時間雨量や総雨量を掲載しており、島田市で数値を変更することはできない。</p>			

6	六合	六合公民館 ロクティ	6月1日	23	<p>P3の対象とする河川の想定雨量の記載に、未公表の河川があるのはなぜか？</p>	<p>県管理河川は、県が浸水想定区域図を作成しており、現状で県が浸水想定区域図を作成していない河川は未公表となる。</p>	櫻庭書記	<p>危機管理部長 危機管理課長 課長補佐 対策担当3名 管理担当1名</p>
					<p>東光寺谷川の水位計を確認するにはどこで見ることができるのか？</p>	<p>「川の水位情報」というWebサイトで、水位計や監視カメラの情報を公開している。</p>		
					<p>自宅付近の浸水想定区域の色分けが2色表示されているが、どちらの色を判断基準とすればよいのか？</p>	<p>25メートル四方で区切った範囲内で、浸水深から地盤の高さを引いた数値をもとに色分けを行っており、複数の色で浸水深が示される地域が発生する。浸水深が深い方の色を判断基準としてほしい。</p>		
					<p>水害等が発生した場合、避難所として六合小学校の体育館を使用することになっているが、ロクティ（六合公民館）は開設しないのか？</p>	<p>原則、避難所は一次指定避難所から開設する。一次指定避難所が使用不可能な状況の場合は、随時、二次、三次と指定避難所を開設することになる。災害や被害の状況に応じて避難所を開設するが、大規模な浸水被害が発生した際は、高い場所に避難することが重要であり、緊急時は、ロクティの2階に避難するなどの命を守る行動をとってほしい。</p>		
					<p>高島町では、伊太谷川と大津谷川が合流しているが、合流以降の想定水位はそれぞれの河川の水量を合計したものになっているのか？</p>	<p>合流以降はそれぞれの川の水量を合計した数値を使用している。また、合流以降の川幅は伊太谷川と大津谷川の川幅を合わせたものになっているため、合流後の水量でも処理できるよう整備されている。</p>		
					<p>2年ほど前、東町に御請線ができたため排水能力が向上したと聞いたが御請線の排水処理能力は、今回のハザードマップの想定に反映されているか？</p>	<p>浸水域内の排水条件を適切に設定し、浸水想定区域図を作成しているため、排水処理能力が反映されたハザードマップとなっている。</p>		
					<p>東光寺谷川、伊太谷川の浚渫の進捗状況はどのようになっているか？</p>	<p>河川改修整備は藤枝側から島田側を実施されている。県管理河川の浚渫は地域からの要望を受け実施していると聞いている。県島田土木事務所維持管理課に、直接、問い合わせいただきたい。</p>		
					<p>東光寺谷川の中に草が生えており、排水能力の低下が心配です。どこに相談すれば対応してもらえますか？</p>	<p>東光寺谷川は県管理河川のため、窓口は県島田土木事務所となる。</p>		

洪水・土砂災害ハザードマップ 電話による問い合わせ一覧

No.	地区	Q：問い合わせ内容	A：回答	備考
1	島田	「早期立ち退き避難」の網掛けがされている箇所でも浸水想定に差があるのはなぜか？	洪水時に「氾濫流」や「河岸浸食」による家屋の倒壊の危険がある場所や浸水深が3m以上となるおそれの場所を「早期立ち退き避難」が必要な区域として定めている。 浸水想定区域は地形などにより浸水の深さに差が生じるため違いがある。	
2	金谷	「過去の被害」で、掲載されている被害より被害が大きかった昭和33年、34年の被害を掲載しないのはなぜか？ 市はあえて掲載しないのか、市として掲載しない理由があるのか？	昭和33年の被害も大きいものであったが、ハザードマップで想定する降雨条件と実際の被害が発生したときの降雨と比較できるよう、直近で発生し、多くの市民が経験した被害を掲載している。 また、昭和30年代から河川改修や山間地の整備も進んでいるため、想定される被害規模も変わってきている。	
3	島田	掲載されている浸水想定区域を定めた際に使用した図面はいつ時点のものか？ 今現在の地図で作成しているのであれば、自分が住んでいる場所（宮川町）の浸水想定が納得できない。（7年前に田んぼを造成して住宅を建てた）	県に確認したところ、大井川の想定最大規模による浸水想定は平成28年5月に告示しているため、浸水想定の方針は平成28年以前の図面を使用しているとのこと。	
4	金谷	想定最大規模には掲載されているが、計画規模に掲載されていない図郭があるのはなぜか？	想定最大規模では、浸水被害が想定されているが、計画規模では浸水被害が想定されない場合や、ハザードマップに掲載されている対象河川の計画規模の浸水想定図が、国や県から公表されていない場合は、計画規模の図郭は掲載していない。	
5	島田	従来のハザードマップと比較して、浸水深が深くなっているのはなぜか？	従来のハザードマップは「計画規模の降雨による河川氾濫」による浸水区域や深さを表示してあるが、今回のハザードマップは「想定最大規模の降雨による河川氾濫」による浸水区域や深さも表示しているため、その浸水想定と比較した場合は深くなる。	
6	島田	一次指定避難所から二次指定避難所への切り替えはどのようなタイミングとなるか？	避難者が多く一次指定避難所での収容ができない場合や、大規模地震などにより施設が破損し避難所内の使用ができない状況であった場合に、二次、三次と段階的に避難所を開放していくことになる。	
7	島田	従来のハザードマップのような地図形式（A1版）のものはないのか？ 施設と利用者の居住地を地図に落とししたものを作成したい。	今回は、冊子版で作成しているため地図版はない。 地図の縮尺は、従来のものと同様に1/10,000であるため、アナログではあるが、必要ページをコピーして切り貼りして使用いただきたい。	
8	金谷	金谷の菊川を流れる「菊川」の氾濫想定区域が掲載されていないのはなぜか？	ハザードマップは、国や県で作成している河川の「浸水想定区域図」データを基に、島田市が作成しており、菊川や伊久美川などの「中小河川」は、浸水想定区域図が作成されていないため、今回のマップに掲載されていない。 今後、県では令和7年度までに、県管理河川の中小河川について、浸水想定区域図を公表するとしており、市でもハザードマップに反映していく予定。	